

山陽小野田

山陽小野田支社

〒756-0824
中央2丁目1-1
電話: (0836) 84-2522
FAX: (0836) 84-6411
メールアドレス
onoda@ubenippo.co.jp

サンパーク 情報共有し災害に備え テナント対象に初の教室

おのだサンパークのテナント従業員を対象とした初めての防災教室が8日、同店であり、140店舗の約200人が災害への備えの大切さについて学んだ。小野田商業開発（藤田敏彦社長）主催。

いつ、どこで災害が発生するか分からない近年の状況を踏まえ、防災に関する知識を習得しようと呼びかけた。市の高潮ハザードマップでは、中心気圧910hPaという国内で過去最大規模の台風が襲来した場合、同店は5〜10層の高潮が押し寄せるエリア内にある。講師は防災研修などを手掛けるEnPal（エンパル、東京都港区）の金藤純子社長（防災士）が努めた。2018年7月に西日本一帯で大きな被害をもたらした豪雨で、岡山県倉敷市真備町の

の自宅が浸水被害を受けた体験を映像と共に紹介した。

金藤さんは「真備町では川が氾濫してハザードマップの予想通りに4600戸が浸水し、逃げ遅れもあった。近くの4階建ての病院に家族で避難したが2階まで水が上がり、木が水を吸って膨らみ戸棚が開閉できないほど。バクテリアを含んだ汚水で大切にしていた写真の画像も溶けてしまい防災への知識、備えが不十分だったことを

痛感した」と振り返った。

全国1718市町村のうち、過去10年間で何らかの水害に遭った自治体の割合は98%、10回以上被災したのは57%もあると聞き参加者は驚いていた。「災害は必ず起こり得るもので、サンパークで働く人同士の信頼関係の構築、情報共有を怠ら



スマートフォンでハザードマップを調べる参加者
（おのだサンパークで）

ないように」とアドバイスした。

小野田商業開発の野口嘉一専務は「昨夏も線状降水帯により市内で冠水被害が発生した。想定外のことが起きると考え、備えを徹底したい」と話した。